

医療ルネサンス

No8839

心不全

2/6

スマートウォッチが通知

「この腕時計が心房細動の本格的な治療に踏み切るきっかけをくれました」

東京都世田谷区の女性(58)は、左手首に巻いたスマートウォッチを見つめながら振り返る。

心房細動は不整脈の一つで、心臓を動かす電気信号

が乱れ、心房という部位が細かく震えて脈が不安定になる病気だ。血流がよどんで血栓(血の塊)ができやすくなり、脳の血管がつまる脳梗塞(脳みそ)を起こすリスクが高まる。初期は本人も気付かないことが多いが、放っておくと心臓に負担がかかって心不全となり、息切れやむくみなどの症状が出る。

女性(58)は、2022年7月に受けた人間ドックの心電図検査で不整脈と指摘された。詳しく調べてもらうため、翌月には自宅近くのクリニックで24時間の心電図検査を受け、心房細動と診

断された。血栓を出来にくくする抗凝固薬と、高血圧の薬などを飲み始めた。

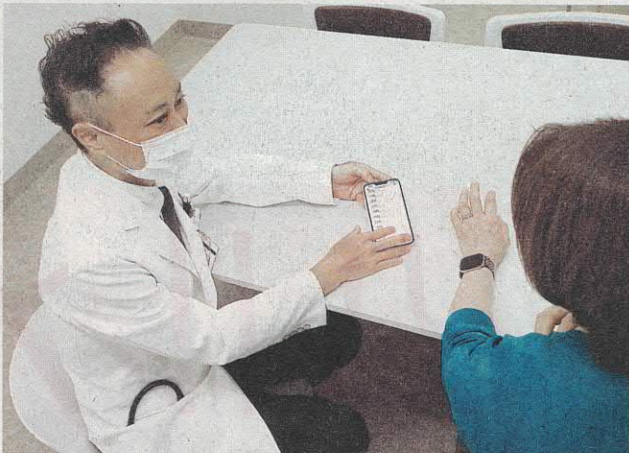
11月には、心房細動の専門的な治療を検討するため紹介された慶応大病院(東京都新宿区)の循環器内科を受診。同大専任講師の木村雄弘さんから、太ももなどの静脈から入れたカテーテル(細い管)を心臓まで通し、不整脈を招く異常な電気信号が流れる部位を焼いたり、凍らせたりする「アブレーション治療」を提案された。早期なら8割が治まるが、進行すると成功率は落ちる。

説明を聞いた女性は「治療は早いほうがよい」と思ったものの、踏み切れなかった。「心臓に何かするの怖い」と思ったからだ。

その頃、女性のスマートウォッチからは心房細動の可能性を知らせる通知が増え、毎朝、3〜4件の通知があった。使っていたのは、裏側の光学センサーが脈の乱れの有無を感知する米アップル社の「Apple Watch」で、デジタル技術を活用した「プログラム医療機器」の承認を20年に受けている。

ウォッチは長男(24)から「健康に気を付けて」と勧められて着用していたものだった。女性は「自分では気付かなくても、体の中で重大なことが起きていると自覚させてくれました」と語る。23年4月に入院してアブレーション治療を受けた。心房細動は消え、通知もなくなった。

木村さんによると、近年は同様の機能がある各社のスマートウォッチなどが普及しており、心房細動の疑いに気付きやすくなっているという。木村さんは「心房細動の可能性を知らせる通知は受診するきっかけになる。放置せずに専門医に相談し、心臓病の早期発見や治療につなげてほしい」と助言している。



スマートウォッチの記録を確認する木村さん(左)と女性(8月、慶応大病院で)

心房細動と診断された。血栓を出来にくくする抗凝固薬と、高血圧の薬などを飲み始めた。

11月には、心房細動の専門的な治療を検討するため紹介された慶応大病院(東京都新宿区)の循環器内科を受診。同大専任講師の木村雄弘さんから、太ももなどの静脈から入れたカテーテル(細い管)を心臓まで通し、不整脈を招く異常な電気信号が流れる部位を焼いたり、凍らせたりする「アブレーション治療」を提案された。早期なら8割が治まるが、進行すると成功率は落ちる。

説明を聞いた女性は「治療は早いほうがよい」と思ったものの、踏み切れなかった。「心臓に何かするの怖い」と思ったからだ。

その頃、女性のスマートウォッチからは心房細動の可能性を知らせる通知が増え、毎朝、3〜4件の通知があった。使っていたのは、裏側の光学センサーが脈の乱れの有無を感知する米アップル社の「Apple Watch」で、デジタル技術を活用した「プログラム医療機器」の承認を20年に受けている。

ウォッチは長男(24)から「健康に気を付けて」と勧められて着用していたものだった。女性は「自分では気付かなくても、体の中で重大なことが起きていると自覚させてくれました」と語る。23年4月に入院してアブレーション治療を受けた。心房細動は消え、通知もなくなった。

木村さんによると、近年は同様の機能がある各社のスマートウォッチなどが普及しており、心房細動の疑いに気付きやすくなっているという。木村さんは「心房細動の可能性を知らせる通知は受診するきっかけになる。放置せずに専門医に相談し、心臓病の早期発見や治療につなげてほしい」と助言している。